

# 企業が共同で取り組むESD ～SDGsターゲット12.8への貢献をめざして～

2019.12.21

食とくらしのサステナブル・ライフスタイル研究会

味の素株式会社  
広報部 ダイレクトコミュニケーションG  
坂本 真紀

花王株式会社  
ESG部門 ESG活動推進部  
井上 紀子

Eat Well, Live Well.



KaO

自然と調和する  
こころ豊かな毎日をめざして



味の素、花王、イースクエア（CSR・環境コンサルティング）が、よりサステナブルなライフスタイルの実現に、身近な食やくらしから貢献しようと、2011年に立ち上げました。

生活者が楽しくサステナブルな生活を実践するための、意識調査や研究、生活者と企業が一緒に考える場の提供や、情報発信などに取り組んでいます。



2015年～



目標12：持続可能な消費と生産のパターンを確保する

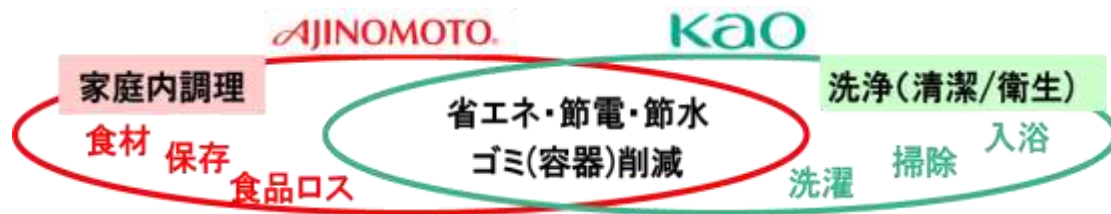
ターゲット12.8：

2030年までに、あらゆる場所の人々が持続可能な開発および自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。

**お客様である生活者の「つかう責任」の後押し**

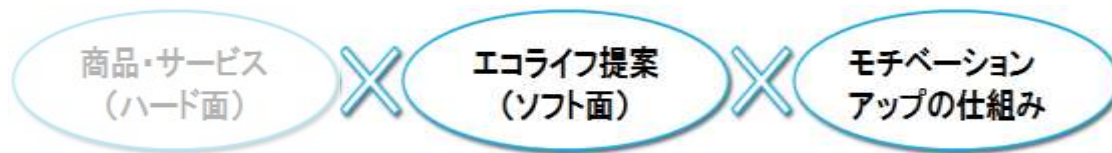
# 2社協働の価値とは

## ◆ 2社で取り組める生活領域



・2社の事業領域を掛け合わせると、毎日の生活の幅広い領域をカバーできる

## ◆ 協働取り組みが効果的なフェーズ



・ライフスタイル提案  
・モチベーションアップ支援の領域で、  
協働の効果を、より発揮できる

## 「エコ家事レシピ」実践トライアル調査&ワークショップ

～環境(エコ)に「やや関心あり」層へのエコ行動推進策を考える～



でも、夫に「おかわり！」って  
言われた時に、おかわりが無い、  
というのは悲しい・・・  
心にゆとりを持って生活したいんです。

「エコ」という言葉が、  
「節約・ケチ」を連想させるので  
前面に出して「エコ、エコ」  
言うのはカッコ悪い

企業からの情報発信には  
なかなか接触していない、  
あるいは、少し疑っている

家族が協力してくれない

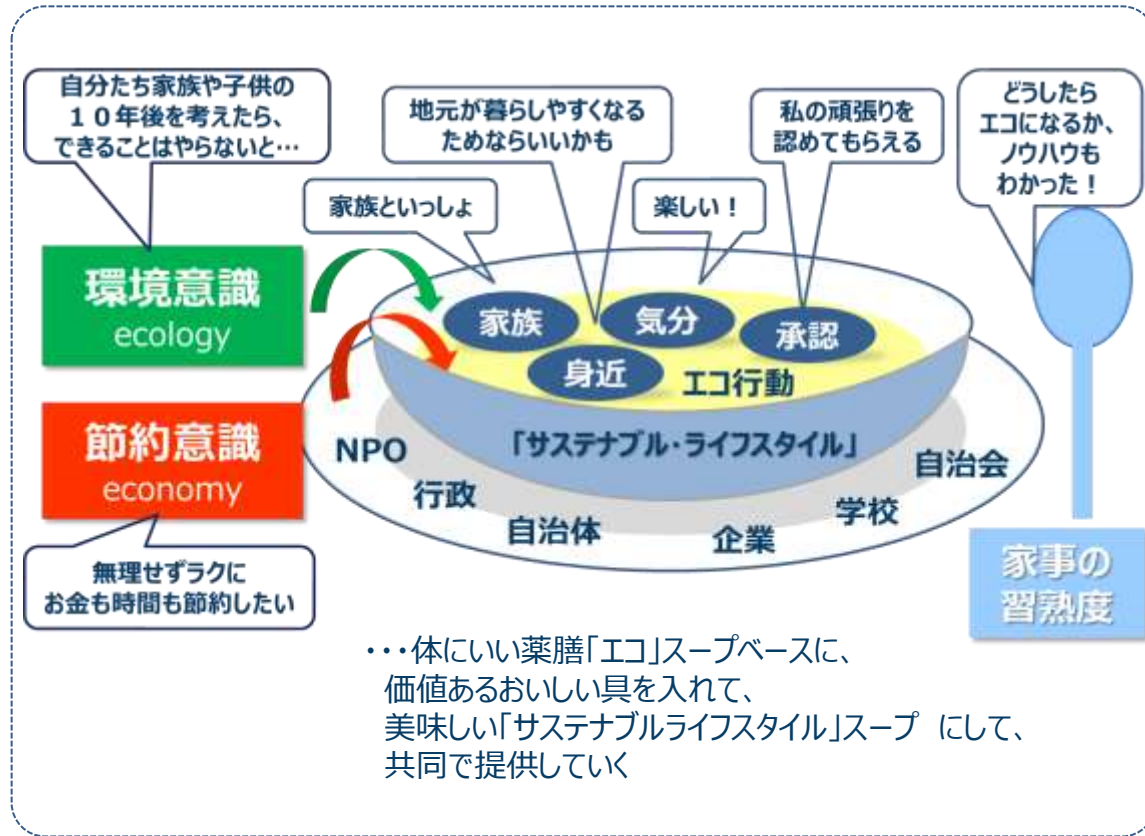
子どもが教わってくると  
やらないわけにいかない

一人暮らしだと、  
良いことも悪いことも  
べつに影響はないだろう

地域でごみ出しのルールが  
違ったりして、何が正しいのか、  
何のためにやるのか、  
よくわからない

# 生活者のエコ意識と行動を探る (2014~2015年)

## 生活者のライフスタイル変容を促していくのにたいせつなこと



# 川崎市との協働開始（2015年～）

## 3. 生活者に、「環境に正しいものさし」を持ってもらい、

### 楽しいサステナブル・ライフスタイルへの変容を促すアクションを開始

2015年 川崎市との協働開始／小学生向け「体験型環境教育プログラム」を開発  
 2016年～2019年 「食とくらしがつくる地球の未来～夏休みチャレンジ～」を実施

身近な  
地域で

家族で

現在小学5年生 ⇒ 2030年の大人



環境、エコについて、  
学校で学び始めている

2030年  
主導権を持っている世代

情報を理解して、  
行動に移すことができる

将来の  
オピニオンリーダー、  
グリーンコンシューマーに  
なってほしい世代

子どもらしい自由な発想で、  
問題解決のアイデアを考えることができる

子どもがやるならやる。  
子どもに言われちゃあ  
仕方ない

…子供を経由して、今の大人も変えていきたい  
⇒小学5年生と保護者

食とくらしがつくる  
**地球の未来**  
みんなでいっしょに考えよう  
～夏休みチャレンジ～



◇ プログラムで目指すこと ◇

未来を担う子どもたちが、  
毎日の暮らしと環境課題とのつながりを理解し、  
家族や地域とともに  
環境を考えた選択と行動ができるようになる

参加者：  
川崎市内の小学5年生と保護者 20組

身近な“食とくらし”が  
“地球・未来”につながっている  
親子でいっしょに  
参加者・関係者みんなで共有  
地元の川崎市で



「環境学習」「教室」  
ではなくて、  
**楽しく「チャレンジ」**  
「工場見学」ではなくて、  
**楽しく体験**  
**「ワクワク工場探検」**

**継続させる**  
期間と動機づけ  
「夏休み自由研究」  
チャレンジに参加して  
頑張った発表したことを、  
**褒める／表彰する**

<参加者募集チラシ2018年の例>

# プログラムの概要

内容：リアルな体験による納得・発見、継続する仕組み、褒められることなどによる達成感、等を重視

オリジナル工場見学＋体験型プログラム  
川崎を知る、リアルな体験

環境日記  
1か月・継続

まとめ発表・表彰  
達成感



浮島処理センター  
花王・川崎工場  
味の素・川崎工場

実験教室  
料理教室

講義  
ワークショップ

プログラム共通で「つながり」を考える  
水・ごみ・資源のつながり、暮らしと地球環境のつながり



期間中毎日実施  
・家庭の中でのエコの気づき  
・家族との共有



まとめて発表する



褒められる



本物に触れる



手を動かす



共有する

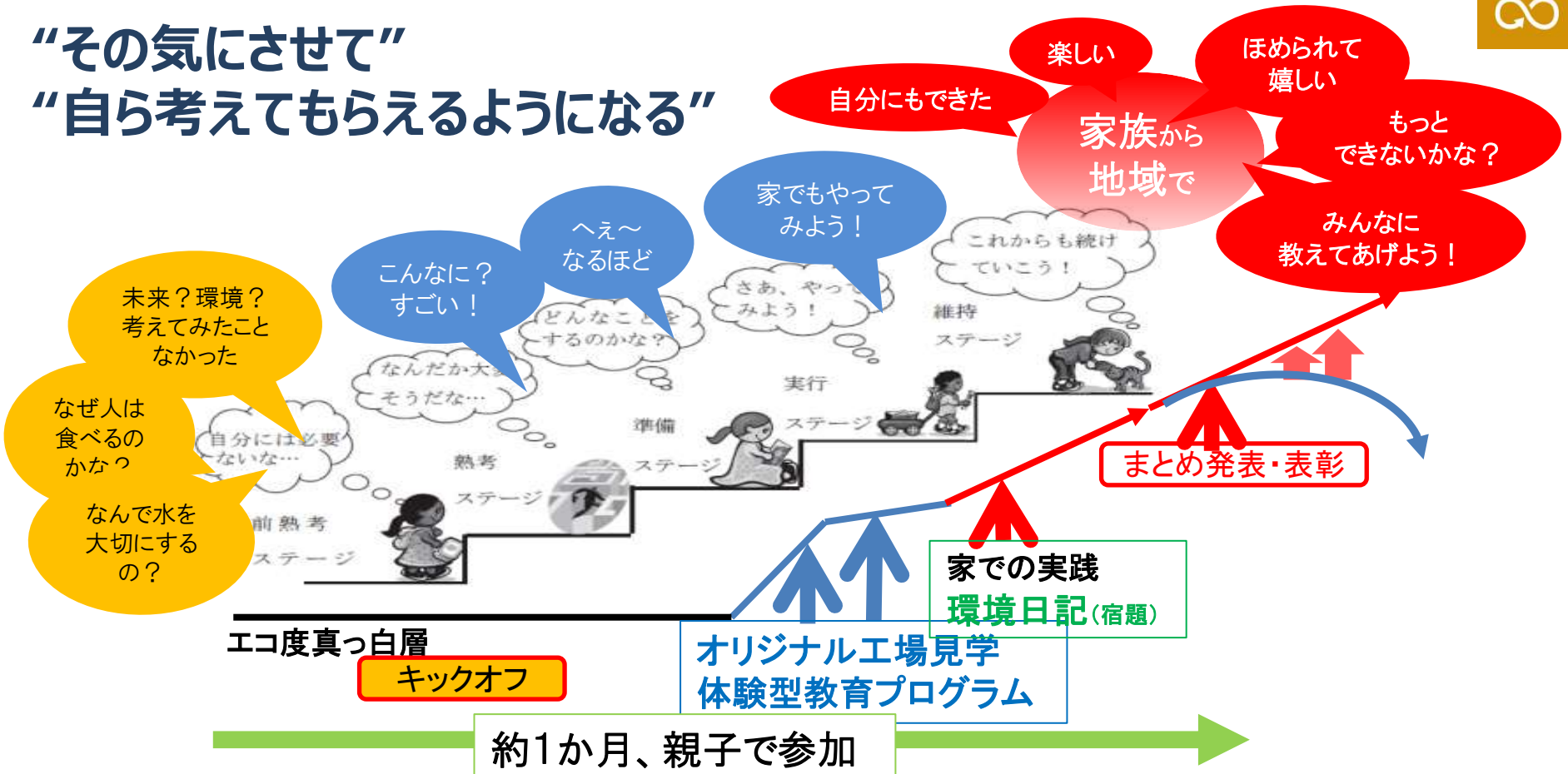






# モチベーションUPの仕掛け

## “その気にさせて” “自ら考えてもらえるようになる”





# 参加者の変化

## <身の回りのエコに気づき、行動できるようになった> (最終日 **子ども**の作文より)

・今回のプログラムに参加したことで、エコが、自分の身近な暮らしの中にある  
ちょっとした小さなことの積み重ねであることを知り、  
自分でできることはやっていこうという意識を  
持つことができたと思います。

・今回のプログラムでのお話や見学で  
体験したことを環境日記にまとめたり  
自分なりにエコについて  
考え行動するようになりました。

## <わかるようになった、エコが楽しくなった、家庭で考えるようになった> (終了後 **保護者**のコメントとアンケートから)

・今まで言われて (いやいや) やってたことの  
意味がわかり納得して、腑に落ちた。気持ちが変わった。

・ごみの分別を今まで以上にきちんとやるようになった。  
エコや社会に対する意識が変わったのが楽しくなってきた。

・子どもと一緒に体験を共有したことで、  
エコが、家族の話題になるようになった。

・新聞の環境の記事が  
親子でわかるようになった。

・子どもは、他の場所に出かけた時も、  
ここでもエコやってたよ、あそこはごみが多かったよ  
とエコのアンテナが立つようになっていた。

・子どもと私が家に持ち帰り、友だちにも伝えたりすれば、  
小さなことも大きな力になるということを感じることができた。  
今後もエコを、家族や友だち、親戚などもっと広げていきたい。



# 「夏休みチャレンジ」体制

## 共催

食とくらしのサステナブル・ライフスタイル研究会



kao



- ・活動主体・全体方針（研究会全体）
- ・研究会全体企画運営・検討会ファシリテート（ES）
- ・活動費用負担、委託窓口（味の素・花王）
- ・企業が持つコンテンツ提供（出前授業、工場見学）
- ・全国区への情報発信（ex日経BPなどへの依頼）
- ・イベントでの協働（エコプロ展など）

川崎市  
KAWASAKI CITY

- ・市民への情報発信・参加者告知
- ・川崎市のスキーム活用（人、施設、オペレーション等）
- ・イベントでの協働（エコプロ展、企業・市民団体など）

## 運営

NPO)ビーグッドカフェ  
一財)グリーンロスジャパン

- ・参加者募集（窓口）
- ・事務局（プログラムの企画・運営）

小学生(高学年)

親子

川崎市民



## 協働 / 協力

### 学校関係者

- ・コンテンツへのオブザーバー参加
- ・イベント後の意見交換（協働可能なプログラム、コンテンツ検討等）
- ・「エネルギー・環境子どもワークショップin川崎」（翌年2月、教員有志による開催）

# 関係者みんなで参加者に働きかける



関係者すべてが役割を担い、  
参加者と対話し、一緒に学び合う  
ユニークな活動に



川崎市職員による講義・表彰



社員が講義や実験を指導



先生から呼び掛けていただき、参加者有志が  
子ども環境・エネルギーワークショップ in 川崎 に参加



環境コンサルタント、  
科学技術コミュニケーターが  
ワークショップをファシリテート



大学生が  
グループファシリテーターに



## 協働についての反響（最終日の保護者のアンケートから）

・川崎市、花王、味の素という大きなバックボーンでのイベントということで、社会全体で取り組んでいると感じることができました。友人にも伝えやすい。

・自然の豊かさ・環境問題は、身近な、というより、自分の生活の一部であるのに、遠い話のように感じられてしまうことがある。今回のように、生活の中から出発する視点と、企業の取り組み、自治体の取り組みが両輪なのだと実感できる内容はとても良いと思う。

・会社や社会の努力がこんなに大きいとは思っていませんでした。

・今回、花王と味の素の協働であることがとても良かったと思います。企業と自治体、NPOと企業等、多くの視点を学べる取り組みをしてほしいです。

・「つなぐ」役割。今回の（プログラムの）ように、独自の取り組みを公開し、紹介するなど、共有していこうという姿勢を強く感じました。好印象だと思います。

・企業努力の部分はあまり知らなかったもので、花王や味の素を応援したい気持ちになった。

## (1) 自治体・行政との取り組み

- ・企業だけではない中立性
- ・行政の仕組み・施設の活用
- ・関係者をつなぐ役割（学校/団体等）

## (2) 学校関係者との関係づくり

- ・児童の視点に立ったアドバイスでプログラムを改善
- ・「子ども環境・エネルギーワークショップin川崎」への参加

## (3) NPO・NGOの運営

- ・それぞれの知見や活動を掛け合わせたプログラムの深化

## (4) 学生（ファシリテーター）の育成

- ・プログラムの広がり
- ・学生の啓発にもなり、  
次に彼らがさらに活動をひろげてくれることに期待



多様なステークホルダーが  
関わることで、  
プログラムにも  
その後のそれぞれの活動にも  
相乗効果が生まれる